

25年9月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 8月20日～ 9月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/9月	10月	11月
仕入動向	国産材製材品	37.5	37.5	31.3
	外材製材品	0.0	△ 18.8	△ 6.3
	構造用集成材	14.3	△ 7.1	14.3
消費動向	国産材製材品	31.3	43.8	25.0
	外材製材品	50.0	56.3	37.5
	構造用集成材	7.1	21.4	0.0
在庫動向	国産材製材品	△ 6.3	0.0	0.0
	外材製材品	△ 31.3	△ 37.5	△ 43.8
	構造用集成材	△ 7.1	△ 7.1	△ 21.4

プレカット加工用部材の仕入は、国産材製材はプラス基調で推移、外材製材9月の横ばいから10、11月はマイナスに、集成材は9月のプラス、10月の横ばいを経て11月は再びプラスに。消費は、国産、外材ともにプラス基調で推移、集成材は9、10月のプラスから11月は横ばいに。在庫は、国産材製材は9、10月の横ばいから11月はマイナスに、外材及び集成材はマイナス基調で推移。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	25/9月	10月	11月
受注	31.3	31.3	12.5
加工	31.3	25.0	6.3
受注残	18.8	0.0	△ 18.8

受注、加工ともプラス基調で推移、受注残は9月のプラスから11月はマイナスへ。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・北欧材は国内ではダブツキ気味、現地では生産調整をしているため先々の動向をチェックし注意深く仕入れる。米マツ小割材に割高感あり。国産材はブランド化事業及びエコポイントの関係で多少多めの仕入れ。
・木材利用ポイントの効果か国産材価格上昇してきた。消費増税前の駆け込みが顕著に現れてきた。
・スギKD集荷順調も価格上昇し始めた、米マツ仕入れやすいが、必要アイテムにその他アイテムを付けてオフ、バランス崩れている模様、集成材は価格横ばい、納期短くなった。受注良好で8月生産は前月比110%、消費比率はWW集成材62%、米マツKD15%、スギ集成材7%、その他16%で少しづつスギが増加しつつある。10月にはWW集成材の入荷減少するので8、9月にかなり多めの仕入れする、価格はじりじり上がっており、8月は前月比7.4%の単価、9～10月にあと1,000～2,000円/m3アップとなりそう。
・集成材は少ないが、5月から加工は例年の20から30%増加。
・内外材とも不足気味の品物が生じている。引き続き受注は多い。国産材も物により値上がりしてきた。
・使用樹種を変更し国産材使用比率を増大する予定、在庫は着工遅れから増加傾向。

(受注動向) ・9月以上に10月良くなりそう、11月に減少傾向、12月、1月まで例年と同じ程度と予測。
・受注残が多く、フル生産が続く。
・先行き在来軸組に減少傾向。